

学校関係者評価委員会報告書

【審議内容】

令和5年度花巻高等看護専門学校自己点検・自己評価の結果と、教員アンケート結果に基づき、本年度の自己評価値が低かった項目（下記質問1、2、3）を中心に、現状の確認と原因の分析をおこない、今後の対応・対策を検討した。

質問1：

VII. 卒業・就業・進学

「進路選択状況と卒業後の活動状況の評価」について。昨年に引き続き相対的に評価が低い項目について、その原因をどのように分析しているか。また今後どのように対応する予定か。

回答：

卒業生の進路やその後の活動についての情報は、在校生が自身の進路を決定する上で重要である。本校としてもその重要性は認識しており、昨年度は卒後1年目の卒業生を対象にインターネットでアンケートを実施した。自身が所属する組織への満足度は概ね高く、また、意識的に自己研鑽している様子が読み取れる結果であった。ただし、この度のアンケートに対する回答率（9/38）は低く、十分な精度が得られていない可能性がある。今後、より精度の高い動向調査をするため、回答率を上げることが課題であると考えている。

また、他校ではこのようなアンケート調査は実施しておらず、ノウハウが少ない状況である。今後、より良い実施方法を手探りで検索していく予定である。

質問2：

IX. 研究

「研究活動の保障」について。今後どのように研究活動を活性化するか。

回答：

各教員は研究の重要性を認識している。しかし現体制では活動時間の確保が難しく、また、具体的な研究方法等の取っ掛かりが見えにくい状況である。そこで、研究活動を推進するための仕組みづくりが必要であると考えている。具体的には、各種学会や勉強会への参加によりコミュニティーを拡大し研究意識を高めることが必要であると考えている。そのような活動状況を数値化し評価する方法を現在検討中である。

質問3：

III. 教育課程経営

「教員の教育・研究活動の充実」について。教員が授業準備のための時間がとれる体制を整えているか。

回答：

質の高い授業を提供するために、十分な準備時間が必要であることは、組織として認識している。そのために、昨年度は、各学年の担任制度の見直し（複数の教員によるチーム担任制の導入により個々人の負担を減らすことで教育時間を捻出）や、各教員の負担を軽減するために外部講師への委託などを行ってきた。本項目が低評価であるのは、内部評価を行った時期との齟齬によるものと分析している。来年度の評価には適正に反映されると

考えている。

その他の検討事項：

多くの他看護養成機関が存在する現状において、優秀な学生の十分数の確保が喫緊の課題である。そのためには奨学金制度の充実や、学生満足度の分析から得られる情報をもとに、より魅力的な学校体制を、情報の発信方法も含めた多角的な視点から模索していく必要性を感じている。本年度は SNS 等による発信を新規に行った。また学校イベント（オープンスクールや花看祭）を通して、保護者や入学希望者に対して、より具体的な情報に触れる機会を提供しており、手応えを感じている。本年度の成果を踏まえ、今後、より魅力的な情報発信の手法について検討し、優秀な入学者の獲得につなげたい。

一方、在校生については、一部、学習に課題を抱える学生がおり、各教員が時間をかけて個別対応している現状である。各教員の負担を減らすために、今後どうすべきかも検討すべき項目である。

【総括】

以上、検討したすべての項目について、学校側は問題点を分析してうえで現在改善に取り組んでおり、今後改善するものと期待される。しかし、一部、短期的な解決が困難な問題（学生の学習問題など）も見受けられる。今後、各部局が連携して解決していくことが望まれる。

以上